

特集

風車の守り人

風力発電を支えるトレーニングセンター

青い海と白い風車が織りなす、美しく印象的な景観。多くの神栖市民にとって、風車は身近な存在といえるでしょう。ところで、私たちの見えないところで風車を守っている人たちがいるのをご存じですか？ 今回は、風力発電を支える人材育成にスポットを当てます。

風力発電を脱炭素の切り札に！

神栖市が風力発電の先進地になったのは、太平洋側で一番強い風が吹くエリアであることに加え、鹿島臨海工業地帯にたくさんの電気を運べる送電網が整っていることなど、好条件に恵まれていたためです。実は、南浜に風車が建ち並ぶ「ウィンド・パワーかみす」は、日本初の本格洋上風力発電所。2010年に完成し、翌年の東日本大震災を乗り越えて早くも3日後には電力供給を再開した実績があります。この震災以降、日本では再生可能エネルギーへの関心が一気に高まりました。さらに、脱炭素が世界共通の目標となる中で、

風の力を活用したクリーンなエネルギーとして風力発電が注目されています。

世界的にみると洋上風力発電が盛んに導入されていますが、日本はまだ年間発電量の1%とごくわずか。しかもエネルギーの約9割を輸入に頼っていることから、国も風力発電を大幅に増やそうと乗り出しています。2020年には、鹿島港が太平洋側で唯一、洋上風力発電の基地港湾に指定されました。基地港湾とは、巨大な風車を陸上で事前に組み立てられるよう整備された港湾です。さらに鹿島港洋上風力発電事業の計画も進んでいます。これは、鹿島港の680ヘクタールに風車19基を建て、

約7万世帯分の年間消費量に相当する約16万キロワットを発電するという一大プロジェクトです。

これから風車が増えていくと、安定して効率よく発電できるよう、保守・点検をする人材が欠かせません。その人材育成をする「ウィンド・パワー・トレーニングセンター」が昨年4月に開業したので、訪問してみました。

世界に通用する安全教育

そもそも、なぜ風車のメンテナンスが重要なのでしょうか？ 株式会社ウィンド・パワー・グループ、トレーニングセンター事業部部長の小松崎崇熙^{なかつ}さんに聞きました。「風

車は常に一定のスピードで回転しているわけではありません。風がある時だけ回転し、スピードも風次第です。そのため定期的にメンテナンスをしていないとうまく風を活用できず、発電効率が落ちてしまいます」



小松崎さん

同社は、風車の運用・保守を専門とするグループ会社を持ち、海外からもメンテナンスの依頼が入るほど高い技術を誇っています。そもそも風力発電の業界では、保守管理の高度な技術を持つ人材は、世界各国を飛び回って仕事することも珍しくないそうです。ただし課題は、高所や洋上での作業には危険が伴うこと。そのため、どの風車メーカーの製品でも確実に安全な作業ができるよう、国際的に通用する安全教育（GWO認証）を受けることが世界的なルールとなりつつあります。



洋上風力発電の基地港湾に指定された鹿島港



ウィンド・パワーかみす洋上風力発電所



風車のタワー内部



ウィンド・パワー・トレーニングセンター

こうした流れを受けて設立されたのが、ウィンド・パワー・トレーニングセンター。ここでは、風車の保守・点検に必要な安全教育（GWO認証）を受けることができます。これは、風力発電の業界で働くための必須条件です。また、ここでは、風車の保守・点検に必要な安全教育（GWO認証）を受けることができます。これは、風力発電の業界で働くための必須条件です。また、ここでは、風車の保守・点検に必要な安全教育（GWO認証）を受けることができます。これは、風力発電の業界で働くための必須条件です。